



## 小学生に税金を学んでもらう活動

目黒区法人会の青年部と婦人部が合同で地元の小学6年生を対象に、昨年から租税教室を開催しています。6年生は社会科の授業で税金について学んでいますので、より詳しく税金について理解してもらうために租税教室を開催となりました。昨年は3校から租税教室依頼がありましたが、好評により今年は6校から依頼がありました。

## 租税教室の講師およびアシスタント

租税教室を開催するために、青年部と婦人部の会員は仕事の後で法人会館に集まって勉強会を開催しています。租税教室のためのシナリオがありますので、講師役とアシスタント役を決め、シナリオに沿って模擬教室を繰り返し、誰もが講師とアシスタントが出来るよう勉強します。アシスタントは講師の進行に沿ってパネルを黒板に貼ったり入れ替えたりします。

## 租税教室のシナリオ

小学生にわかりやすく、興味を持ってもらうために、租税教室のシナリオは工夫されています。「税金」はどのように必要なのか、どんな税金があるかを学ぶために、身近な消費税を例にして始めます。

まず、生徒一人に協力してもらい、お菓子屋さんで100円のチョコレートを買ってもらいます。チョコレートは100円ですが108円払わないと買えません。この8円が消費税だということは小学生もわかっていますが、お小遣いが減ってしまうので「税金なんてない方が良くと思う人？」と聞くと皆さんが手をあげます。

そこで消費税を例にして税金の話を進めます。商店では物の値段に消費税を足して売りますが消費税は店の収益ではありません。1年間に集まった消費税は税務署に納めますが、税務署には金庫がありませんので、日本銀行に持っていきます。日本全国で1年間にどれくらいの消費税が集まるか黒板に数字を書き込みます。17の下に0が12個つきます。17兆円です。

## 税金の使い方や決め方は？

この税金をどのように使うか財務省が予算書案を作りますが、これで良いかを決めるのが国会です。国会では税金の使い方だけでなく、税金の集め方や新しい税金を決めたりします。

「日本には消費税のほかにもたくさんの税金がありますが知っていますか？」と問いかけると、たばこ税・酒税・ガソリン税などと答えてくれます。現在、日本には52の国税と地方税がありますが、珍しい名前の「トン税」という税金は船のトン数にかかる税金です。

税金は、私たち国民の生活が豊かで安全で、便利に暮らしていけるように使われています。小学生にとって身近な税金として、小学校の校舎を作るのに約10億円、プールを作るのに1億円かかります。もし学校のプールを作り直さなければならなくなった時、1億人の人から集めれば一人1円になります。みんなが必要な物を作るために、みんなで出し合うのが税金ですが、1億円のレプリカを触って、その量を体験してもらいます。

## 身近な税金の使い方を知ってもらう

次に税金で建てられた建物と税金ではない建物のパネルを渡して、黒板に貼り分けてもらいますが子供たちは悩みます。意外とわかりにくいものです。教室を暗くして「税金の無い世界」のDVDを観てもらいます。消防自動車・ごみ収集車・警察などを呼ぶにもすべてお金がかかります。

最後に、小学生にも税金が使われていることを説明します。1年間に92万円の税金が使われていますので6年間で550万円以上の税金が使われているのです。学校の物を大切に、しっかり勉強して下さいと締めくくります。知っているようで知らなかった税金を、私たちも学ぶことが出来ました。(S)

